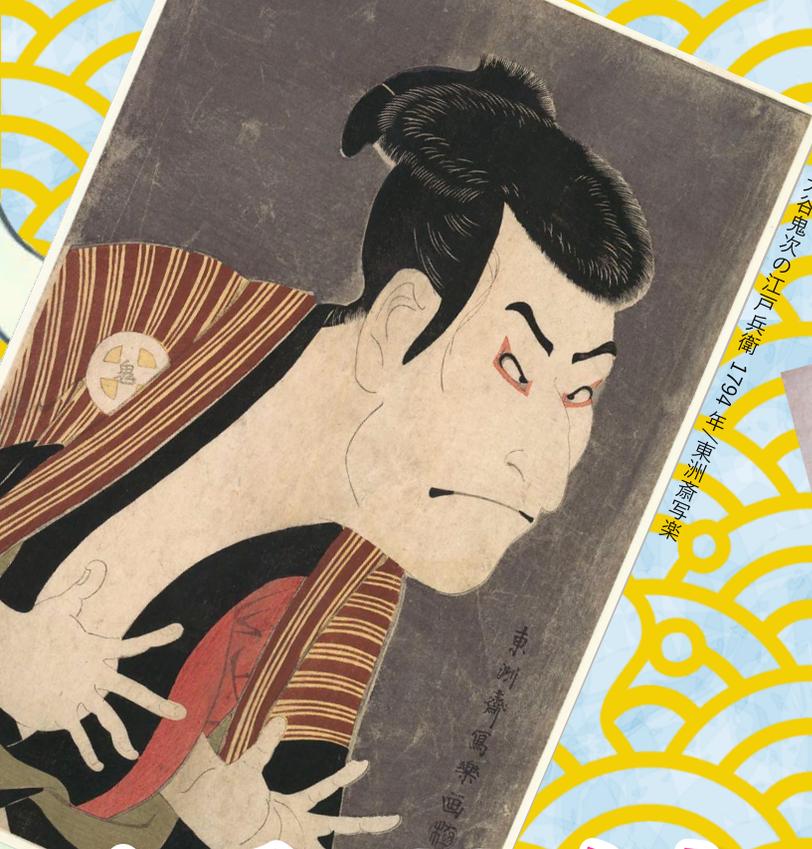


当時三美人1793年/喜多川歌麿

三世大谷宛次の江戸五齋 1794年/東洲斎写楽



# 浮世絵の魅力

講師 菅原 真弓  
大阪公立大学 文学研究科 教授

詳細は裏面をご覧ください▶

2025年 ※感染症の流行や自然災害等の影響により、日程・開催方法・講座内容等が変更となる場合があります。

## 9/27(土)~10/18(土) 14:00~15:30 各土曜日・全4回

- 会場：大阪公立大学 I-site なんば 2階（大阪市浪速区敷津東2-1-41 南海なんば第1ビル）
- 定員：60名（申込者多数の場合は抽選） ■ 対象者：どなたでも ■ 受講料：4,000円（全4回分）
- 申込方法：下の(1)(2)いずれかの方法でお申し込みください。お一人様につき、一回のお申し込みが必要です。
  - (1) 申込フォーム：本学Webサイトまたは右記二次元コード「申込フォーム」からお申し込みください。
  - (2) 往復はがき：往信用はがきに ①氏名（フリガナ）、②年齢、③郵便番号・住所、④電話番号、⑤このチラシの入手先 をご記入の上、下記宛先へお送りください。

申込締切  
9/3(水)必着

※返信用はがきは両面とも白紙でお送りください。  
(宛先) 〒556-0012 大阪市浪速区敷津東2-1-41 南海なんば第1ビル  
大阪公立大学 産学官民共創推進室「浮世絵の魅力」係

申込フォーム▶



※受講の可否は 9/12(金)までに通知します。届かない場合は必ずお問い合わせください。

■ 問合せ先：大阪公立大学 産学官民共創推進室 社会連携担当 Tel 06-7656-5112 Fax 06-7656-5203



大阪公立大学  
生涯学習・公開講座Webサイト▶ [大阪公立大学 公開講座](#) 🔍 検索



※お申し込みの際の個人情報、申込後の事務連絡、統計資料等の作成および本学公開講座等のご案内に使用いたします。利用目的以外の使用については、一切いたしません。

## 講義概要

「浮世絵」は、モネやマネ、そしてゴッホといった印象派の画家たちに大きな影響を与えた存在として有名で、西欧世界における「ジャポニスム」を象徴する美術事象です。本講座では、浮世絵の歴史や浮世絵のメディア的側面、ジャポニスム、そして現在も私たちの生活の中に息づく浮世絵についてお話しします。



講師 菅原 真弓  
大阪公立大学 文学研究科 教授

## 講義スケジュール

第1回 9月27日(土)	<b>江戸時代の「メディア」浮世絵～浮世絵の機能に着目して</b> 大量複製、大量頒布が可能な浮世絵版画は、たとえば現代で考えるとところのグラビア（美人画や役者絵）や世相風刺媒体（戯画、風刺画）、あるいは観光ガイドブック（名所絵）、そして世の中の流行、世相を映し出す、いわゆる「報道」媒体としての機能を持っていました。浮世絵版画のこうした機能とそれゆえの特質について語ります。
第2回 10月4日(土)	<b>蔦屋重三郎と黄金期の浮世絵～歌麿、写楽～</b> 2025年大河ドラマの主人公・蔦屋重三郎は俗に「江戸のメディア王」と呼ばれます。一代にして自らの店舗・耕書堂を起し、浮世絵を代表する2人の著名な絵師、喜多川歌麿と東洲斎写楽を世に送った蔦屋重三郎（通称「蔦重」）の戦略について語ります。
第3回 10月11日(土)	<b>浮世絵、海を渡る～「ジャポニスム」概説</b> 日本美術史上での評価とは別に、現在もなお、最も著名な「日本美術」と考えられているのが浮世絵版画です。19世紀の後半に西欧に渡った浮世絵版画がいかにかヨーロッパに受容されたのか、を語ります。
第4回 10月18日(土)	<b>今に生きる浮世絵 ～現代美術の中の浮世絵、生活の中にある浮世絵～</b> 明治時代にその歴史的役割を終えた浮世絵版画ですが、現在もなお、私たちの生活の身近なところに生きています。それはたとえば商業アートの世界であったり、あるいは、新たに浮世絵版画を受容し、転生させた現代アート作品としてであったり。最終回は、今も生き続ける「浮世絵」について語ります。



アクセスマップ

### 会場

大阪公立大学 I-site なんば 2階  
大阪市浪速区敷津東2-1-41 南海なんば第1ビル

※駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用ください。

- 南海電鉄「なんば駅（中央出口）」下車、南海線東側の道を南へ約800m
- OsakaMetro御堂筋線「なんば駅（5号出口）」下車、南へ約1,000m
- OsakaMetro御堂筋線/四つ橋線「大国町駅（1番出口）」下車、東へ約450m
- OsakaMetro堺筋線「恵美須町駅（1-B出口）」下車、西へ約450m